

# マアート

## 計測器管理プログラム

### 操作説明書

Copyright ©2000-2011 マアート・ハイシステム株式会社 All Rights Reserved  
Manual Rev. 6.1

マアート・ハイシステム株式会社

# 目次

はじめに	4
使用許諾書	5
サポートサービス説明	8
第1部           インストール	
1.1   必要な動作環境について	12
1.2   インストールの仕方	14
1.3   マイクロソフト アクセスのセキュリティ	14
1.4   起動と終了	15
1.5   用語説明	16
第2部           導入	
2.1   導入時の各種設定について	19
2.2   基本情報 (ライセンス・キー登録・最も重要)	20
2.3   システムデータ	23
2.4   履歴データ削除	26
2.5   データバックアップ	26
第3部           基本操作	
3.1   概要	28
3.2   計器登録	28
3.3   履歴入力 兼 バーコードリーダー入力	32
3.4   コードレスバーコードリーダーデータ変換入力	35
3.5   コードレスバーコードリーダーデータ自動収集	36
3.6   貸出・返却管理	37
3.7   修理・返却管理	39
3.8   在庫確認	41
3.9   コードレスバーコードリーダー操作	43
第4部           帳票選択	
4.1   帳票選択	46
4.2   バーコード印刷	47
4.3   計器検索印刷	48
4.4   メインメニューカレンダー	51
第5部           データ変換	
5.1   データ変換	53

## ご注意

「はじめにお読みください」説明書ではインストール説明とデータバックアップ説明に説明用の架空名称を使用しています。実際に使用するにはそれぞれを下記名称に読み替えてください。

実際に操作すれば下記正式名称で表示しますので問題ありません。  
お客様がご購入されたプログラムは

マアート計測器管理プログラム 　　です。

標準フォルダー名で C:¥HighSystem¥一般 と表示してあるところは

C:¥HighSystem¥技術¥計器 　　です。

またプログラムの名称で説明用.mdb と表示してあるところは

EXMEA03.mdb 　　です。

データバックアップされるデータファイル名で架空 DF.mdb と表示してあるところは

IMDF.mdb 　　です。

データバックアップ先のファイル名で説明用データ BU.MHC と表示してあるところは

IM データ BU.MHCA 　　です。

また日付いりのバックアップファイル名は

IM[日付数字8桁].MHCA 　　です。

(例 ← 2011年4月1日なら IM20110401.MHCA となります。)

注意　メインメニューから「マスター管理」「データバックアップ」「復元」で「IMsamp.MHCA」を選択復元するとサンプルデータを見れます。また「初期化空.MHCA」を復元すると未入力空データになります。これらを復元する前に自分で作成したデータは別の名称であらかじめ保存してください。なおサンプルデータの内容、名称等はすべて架空のもので実在するものでも実在する現象でも事実でもありません。そのデータに責任を持つことはありません。

# はじめに

このたびはマアート計測器管理プログラムをお買い上げいただきまして、ありがとうございました。マアート計測器管理プログラムは、最新のデータベースエンジンをもとに開発された Windows XP / Vista / 7 対応の、計測器管理に関連した業務をカバーしたソフトウェアです。(Windows95/98/98SE/Me/NT4.0 は動作保証しておりません。)

マウス操作を多用した高い操作性を持っています。このマアート計測器管理プログラムを充分に活用し、ユーザー独自の専用アプリケーションとして末永くご利用ください。

またお客様の業務に最適なカスタマイズ(別途料金)も可能ですのでぜひご用命ください。

マアート・ハイシステム有限会社

## ご注意

・この説明書に記載されている記載事項、ソフトウェアの仕様、機能は将来、予告なく必ずバージョンアップします。弊社ホームページにて確認ください。

・この説明書の著作権はマアート・ハイシステム有限会社にあります。一部または全部を無断で複製することはできません。

・ Microsoft, Windows95/98/ME/XP, WindowsNT4.0/2000/7Vista, Access, Excel, Office, Microsoft FAX, MS-IME, インテリマウス, SQL server 等は米国マイクロソフト社の登録商標です。その他、記載されている会社名、製品名は各社の商標または登録商標です。

・データの圧縮バックアップに使用している UNLHA32.DLL は M i c c o 氏のフリーソフトウェアです。(弊社は1999年8月21日に使用許可をいただいています。圧縮バックアップについての質問は弊社にしてください。M i c c o 氏へは問い合わせないでください。)

・2010年8月6日よりデータの圧縮バックアップ、復元に使用しているフリーソフトウェアの CAB32.DLL について以下を明記します。

Copyright(C)1998-2002 K.Miyauchi

This library is based in part on the Microsoft Cabinet Software Development Kit.

**<http://www.maat.co.jp>**

総合案内 [infosales@maat.co.jp](mailto:infosales@maat.co.jp) (迷惑メール回避のためアドレスを変更する場合があります。ホームページの下部か特定商取引ページを参照してください。)

**<http://www.maat.co.jp/lawdisp.html>**

# 使用許諾契約書 重要

## ソフトウェア製品ライセンス

製品名	マート計測器管理プログラム
ライセンス数	1 ライセンス (同一のお客様所有で同一の構内にある 3 台までのコンピュータで使用する権利)

以下のライセンス契約書を注意してお読みください。本使用許諾契約書(以下「本契約書」といいます)は、下記に示されたマート・ハイシステム有限会社(以下マートといいます)のソフトウェア製品(以下「本ソフトウェア製品」または「本ソフトウェア」といいます)に関してお客様(個人または法人のいずれであるかを問いません)とマートとの間に締結される法的な契約書です。本ソフトウェア製品は、コンピュータ ソフトウェアおよびそれに関連した媒体、ならびに印刷物(マニュアルなどの文書)、「オンライン」または電子文書を含むこともあります。本ソフトウェア製品をインストール、複製、または使用することによって、お客様は本契約書の条項に拘束されることに承諾されたものとします。本契約書の条項に同意されない場合、マートは、お客様に本ソフトウェア製品のインストール、使用または複製のいずれも許諾できません。そのような場合、未使用のソフトウェア製品を直ちに購入店またはマートへご返品ください。

### ソフトウェア製品ライセンス

本ソフトウェア製品は、著作権法および国際著作権条約をはじめ、その他の無体財産権に関する法律ならびにその条約によって保護されています。本ソフトウェア製品は許諾されるもので、販売されるものではありません。

1. ライセンスの許諾 本契約書は、お客様に対し以下の権利を許諾します。

ライセンスキー(ライセンス番号という場合も同様のことを指します。)

マートがライセンスキーを使用して本ソフトウェアを許諾する場合、お客様名(またはお客様が登録した実在する法人、組織等の名称)と7桁郵便番号によって規定される記号の組み合わせにより一意に決定されるライセンスキー(お客様を特定する文字列)によるものとします。

ライセンスキーによる使用の制限

ライセンスキーの未登録またはマートが交付した正規のライセンスキーでないものを登録して本ソフトウェア製品を使用すると一定日時後、一定起動回数後に一時的に本ソフトウェア製品の使用ができなくなります。

ライセンスキーの更新

正規購入のお客様はお客様名等の変更によるライセンスキーの更新をマートに請求することができます。(証明資料が必要な場合もあります。)

アプリケーションソフトウェア

お客様は、本ソフトウェア製品をご購入された同一のお客様所有で同一の構内にある3台までのコンピュータ上にインストールして使用することができます。また、お客様は本ソフトウェア製品の同じオペレーティングシステム用の旧バージョンのコピー1部を本ソフトウェア製品がインストールされている特定のコンピュータ上にインストールしておくことができます。

記憶装置/ネットワークの使用

お客様は、ネットワークサーバーのような記憶装置に、本ソフトウェア製品のコピー1部を蓄積またはインストールすることもできます。かかる記憶装置は、本ソフトウェア製品を内部ネットワークで他のコンピュータにインストールまたは実行するためだけに使用されるものでなければなりません。ただし、本ソフトウェア製品がインストールされたコンピュータまたは記憶装置から本ソフトウェア製品を実行している各コンピュータごとに、専用のライセンスを取得しなければなりません。また、本ソフトウェア製品についての1つのライセンスを異なるコンピュータ間で共有したり、同時に使用することはできません。

2. その他の権利と制限

リバースエンジニアリング、逆コンパイル、逆アセンブルの制限

お客様は、本ソフトウェア製品をリバースエンジニアリング、逆コンパイル、または逆アセンブル、その他人間が理解できる状態にすることはできません。

構成部分の分離

本ソフトウェア製品は1つの製品として許諾されています。その構成部分を分離して3台をこえるコンピュータで使用することはできません。

プレインストール用またはバンドル用 ソフトウェア製品の使用

本ソフトウェア製品がプレインストール用またはバンドル用 ソフトウェア製品ライセンスで提供されている場合には、お客様は本ソフトウェア製品とともに入手した特定のコンピュータ(以下「本コンピュータ」といいます)上でのみ使用することができます。また、この場合、本ソフトウェア製品の譲渡あるいは売却は、本コンピュータに伴ってのみ行うことができます。

レンタル

お客様は本ソフトウェア製品をレンタルまたはリースすることはできません。

サポートサービス

マートは、本ソフトウェア製品に関するサポートサービス（以下「サポートサービス」といいます）をお客様に提供することがあります。サポートサービスについては、ユーザーマニュアル、オンラインドキュメント、またはマート提供の印刷物などに記載されているマートのポリシーおよびプログラムに従ってご利用になります。サポートサービスの一部としてお客様に提供された追加のソフトウェアコードは、本ソフトウェア製品の一部とみなされ、本契約書の条件および条項が適用されます。

#### ソフトウェアの譲渡

お客様は、本契約に基づいてお客様の全ての権利を恒久的に譲渡することができます。譲渡には、本ソフトウェア製品の一切（全ての構成部分、媒体、マニュアルなどの文書、アップグレード、本契約書）を譲渡することが条件です。委託販売その他の間接的な譲渡をすることはできません。譲受人は、本契約書の条項に同意し、本契約書および本ソフトウェア製品をさらに譲渡しないことに同意しなければなりません。

#### 解除

お客様が本契約書の条項および条件に違反した場合、マートは、他の権利を害することなく本契約を終了することができます。そのような場合、お客様は本ソフトウェア製品の複製物およびその構成部分を全て破棄しなければなりません。

#### 3. アップグレード

本ソフトウェア製品がアップグレードである場合、お客様は、本ソフトウェア製品を使用するためには、マートによってアップグレード対象製品と指定されているソフトウェア製品を使用するためのライセンスを正規に取得していなければなりません。アップグレードである本ソフトウェア製品は、そのアップグレードの対象となる製品の代替、あるいはこれに追加されるものです。お客様は、アップグレードにより得られたソフトウェア製品を、本契約書の条項に従ってのみ使用することができます。複数のコンピュータ プログラムのコンポーネントから成り、これらが1つの製品とされている場合において、本ソフトウェア製品がそのコンポーネントのアップグレードとして提供されている場合、お客様は本ソフトウェア製品を1つの製品としてのみ使用または譲渡できるものとし、各構成部分を分離して複数のコンピュータ上で使用することはできません。

#### 4. 著作権

本ソフトウェア製品（本ソフトウェア製品のプログラムコード、画面デザイン、帳票デザイン、Web ページデザイン、データベース構造、実現する機能、操作方法、操作手順、組み込まれたイメージ、写真、アニメーション、ビデオ、音声、音楽、テキスト、アプレットを含みますが、それだけに限りません）、付属のマニュアルなどの文書、および本ソフトウェア製品の複製物についての権原および著作権は、マートが有するもので、本ソフトウェア製品は著作権法および国際条約の規定によって保護されています。したがって、お客様は本ソフトウェア製品を他の著作物と同様に扱わなければなりません。ただし、お客様はオリジナルを、保存またはコンピュータ上の本ソフトウェア製品を復元する以外の目的で使用しないことを厳守する限り、本ソフトウェア製品を、特定のコンピュータ上へインストールすることができます。お客様は、本ソフトウェア製品付属のマニュアルなど文書を複製することはできません。電子的マニュアルについては1部数印刷することができます。

#### 5. 保証

マートは本ソフトウェア製品の使用者が本ソフトウェア製品を使用することによって、直接もしくは、間接に発生した種々の損害（データ、プログラムその他無形体財産に対する損害、使用利益、および得るべかりし利益の喪失、事業の中断、事業情報の損失など）に対して一切の責任を負わないものとします。またマートが責任を負ういかなる場合においても、マートの責任は本ソフトウェア製品の購入代金を超えないものとします。

#### 6. 品質保証

本ソフトウェア製品が付属の製品マニュアルに従って実質的に動作しない場合、または本ソフトウェア製品の媒体またはマニュアルに物理的な瑕疵がある場合にはお買い上げ後 100 日間に限り、交換、または代金返還のいずれかにより対応するものとします。ただし上記の事態が火災、地震、第3者による行為その他の事故、お客様の故意もしくは過失、誤用その他異常な条件下での使用において生じるマートの責に帰さない理由により生じた場合、マートは保証の責任を負わないものとします。またマートまたはその供給者がお客様のコンピュータに本ソフトウェア製品のインストールを代行し本ソフトウェア製品を稼働して操作説明をした場合には瑕疵担保期間はインストール後、50 日間とさせていただきます。

#### 7. 裁判所

お客様、および弊社は、本契約に関連して発生した紛争については日本国、名古屋地方裁判所または名古屋地方裁判所岡崎支部および安城簡易裁判所を第一審の管轄裁判所とし名古屋高等裁判所を第二審の管轄裁判所とすることに同意します。

ライセンスご購入年月日 (西暦で記入すること) 20 年 月 日	ライセンスご購入者  様
マアート 計測器管理 プログラム	販売担当

マアートとは

古代エジプト人(多神教です)の信仰した神のひとつで正義、真理、法、秩序の象徴としての女神。頭上に駝鳥の羽根(マアート)をつける。弊社名マアートはこのマアートをもじったものです。弊社は正義、真理、法、秩序をきわめて重視します。

マアート説明ページ

<http://www.maat.co.jp/naming.htm>



## サポートサービスについて

弊社サポートサービスとはソフトウェアの操作教育、操作教授とは異なります。サポートサービスはお客様が弊社ソフトウェア製品を使用した場合の疑問や説明書を読んでもよく理解できないという特定の問題に対してのソフトウェアメーカーからの支援サービスです。したがって、インストールがわからない、説明書を読むより聞いた方が早いと、一から十まで説明を要求することはサポートの範囲を超えます。そういうサービスを必要とする場合には、弊社の「有償年間電話教育サービス&サポート(出張サポート除外)」や「有償出張教育サービス&サポート」などの契約や要請をしていただく必要があります。

なおここで「弊社ソフトウェア製品」と呼ぶ場合はプログラム本体、付属のコンポーネント、説明書を含みます。

## サポートのための動作基盤

弊社ソフトウェア製品はマイクロソフト社の Windows OS が稼動するパソコンで動作します。したがってパソコンの動作環境は弊社ソフトウェア製品サポートの前提になります。マイクロソフトがサポートを終了した Windows のバージョンでは弊社ソフトウェア製品の動作保証も終了させていただきます。また同じくマイクロソフトの Access データベースソフトウェア製品、SQL Server データベースソフトウェア製品のマイクロソフトサポートも影響します。もちろんマイクロソフトのサポートが終了した時点から、なにもかも動作しなくなるというものではありませんが、保証をできないという事です。当該弊社ソフトウェア製品を購入された時点での Windows がサポート対象の動作基盤となります。将来の Windows のバージョンとマイクロソフトがサポートを終了した過去のバージョンは対象とはなりません。

2010年8月以降(2010年7月13日でサポート終了したものがあります。)の時点では Windows XP Service Pack 3 以降、Windows Server 2003、2008、Windows Vista、Windows 7 の5種類の OS での各エディションです。(エディションとはそれぞれの Windows に家庭用や事務用のバリエーションがあることをさします。)

## 無償サポート条件

弊社ソフトウェア製品購入者への無償サポートはユーザー登録していただいた購入者に対して購入日より1年間以内に20回までの電話、FAX、メールでのサポートに限られます。(弊社既存ユーザーの平均サポート回数は0.7回です。)

ソフトウェアサイトでの購入者は購入時に自動ユーザー登録されます。また直接販売購入者も同様です。その他の場合は弊社へユーザー登録していただく必要があります。

## サポート受付

電話での問い合わせサポートは月曜～金曜(祝祭日を除く)の9時～12時、13時～17時です。FAX やメールの場合は随時受け付けていますが回答は原則として電話サポートの時間帯になります。問い合わせ先はプログラム名をクリックすると表示される「入力説明」ウインドウの下部に表示されます。



### 無償サポート対象条件

弊社ソフトウェア製品のサポートでは以下の条件を対象としています。(弊社ソフトウェア製品についてのみです。)

- 1 特定の疑問のある機能について操作手順の教授説明。
- 2 ソフトウェアのバグについての問い合わせ。(バグと判明した場合はサポート回数のカウントはしません。)
- 3 応用方法についてのヒント。
- 4 エラーやエラーメッセージに対するの対応方法。
- 5 その他、技術的質問。

### サポート対象者除外条件

弊社ソフトウェア製品のサポートは以下の条件の場合を想定していません。

- 1 18 未満の人(弊社ソフトウェア製品は業務用またはそれに準じた機能の製品であるため。)
- 2 義務教育終了程度の日本語知識がない場合。(説明書が読めません。)
- 3 初歩的な演繹的および帰納的思考ができない人。(1 + 1 = 2 とは習ったが 3 + 2 という組み合わせでは 1 度も習ったことがないからわからないという程度ではプログラムの理解はできません。使用される業務や職種もさまざまに想定されるすべての事例を記述することはできません。)
- 4 自分の思い通りにならないと根も葉もない理由を作り上げ、威嚇、信用毀損、偽計業務妨害、威力業務妨害等をする人

### 無償サポートの打ち切り

以下の事例でしめされるような場合には、無償サポートの打ち切りを通告する場合があります。また有償サポート契約期間中であっても 2 項以下に該当する場合には準じた措置をとり、有償サポート契約の更新はできません。

- 1 無償サポートとして提供する内容以上の「有償年間電話教育サービス&サポート(出張サポート除外)」や「有償出張教育サービス&サポート」に該当するサービス&サポートを 2 項目または 2 度以上要求された場合。
- 2 弊社ソフトウェア製品へのサポートではなく、弊社のポリシーや体制への批判。プログラムへの建設的改善提案などではなく、弊社ソフトウェア製品への批難、根拠のない批判、こきおろし、いいがかりを 2 項目以上または 2 度以上述べた場合。
- 3 弊社や弊社ソフトウェア製品への悪意ある風評を流布すると述べたり、実施した場合。
- 4 リバースエンジニアリング、逆アセンブル、逆コンパイルして弊社ソフトウェア製品のイミテーションソフトウェア製品を作成する目的での細かな質問や問い合わせ。
- 5 サポート対象除外条件に該当する購入者かサポート対象者除外条件に該当する他の担当者がサポート要請を 2 度以上してくる場合。
- 6 ウィルス汚染やハードディスククラッシュ等、弊社の責に属さないことで部分的データ喪失または全データを喪失したり毀損したとき、およびデータの外部流失が発生したとき弊社に責任を押しつけようとしたり、なんらかの責任があるかのように主張した場合。(パソコン外

部にデータバックアップしたり、データ保護、流失防止管理することはユーザーの自己責任です。)

7 弊社ソフトウェアやサービス役務等の対価の支払などで金銭的トラブルを起こした場合や弊社販売倫理規程に違反する場合。

これらの中で悪質な場合は刑法第 222 条(脅迫)、第 230 条(名誉毀損)、第 231 条(侮辱)、第 172 条(虚偽告訴)、第 233 条(信用毀損・業務妨害)、第 234 条(威力業務妨害)、第 249 条(恐喝)、第 250 条(恐喝等未遂罪)、等に該当するとして躊躇なく刑事訴訟法第 239 条などに基づいて告発する場合もありえます。

なお打ち切りとしたユーザーに対しては、他のすべてのサービス&サポート契約締結や製品販売、役務契約を永久に拒否します。

## 第 1 部

# インストール

## 1.1 必要な動作環境について

本プログラムには以下のパソコン環境が必要です。

### ハードウェア

CPU	Pentium または互換、後継プロセッサ－500MHz 以上 1.5GHz 以上を推奨 このソフトは NEC の旧型 PC98(ハードディスクが A ドライブの 1997 年 8 月以前製造のもの)には対応していません。
メモリー	128M バイト以上 256M バイト以上を推奨 Windows のバージョンで最低必要メモリー量が異なります。 それぞれの条件はクリアしてなお余分にあることがのぞましい。
ハードディスク	100M バイト(100G バイトではありません)以上の空き領域(当初は 20MB 程度だが登録者数、履歴や請求入金マスターで増加します。画像登録すると急激に増大します。)。500M バイト以上がのぞましい。
モニター	解像度 1024 × 768 以上、17 インチ以上を推奨 <b>各画面は 1024 × 768 でフル画面になるよう設計</b> Access 2007 や Access 2007 Runtime ではツールバーのかわりにリボンが表示され画面上部の高さが増えるので 1024 × 820 程度に縦をのばすと良好です。 解像度 800 × 600 や 640 × 480 はサポートしません。 ネットブックパソコンの多くは 1024 × 600 程度なので使用不可。
プリンター	WindowsXP サポート機種
マウス	WindowsXP サポート機種、 インテリマウス対応
光学ドライブ	CD-ROM によるインストールには必要
バックアップ装置	データ喪失からの安全性のためには必須。USB メモリー、MO ディスク、CD-R/RW ドライブ、DVD-R/RW ドライブ等大容量記憶装置。 フロッピーディスクは信頼性や容量から不可。2 つ以上のメディアに交互バックアップすることがのぞましい。

### 特殊機器

コード式バーコードリーダー 本プログラムでは帳票にバーコードを印刷したり、そのバーコードを読み取り管理することができます。そのためにはバーコードリーダーが必要です。その仕様は以下のとおりです。

CODE128(バーコードの種類の一つ)が読めること

送出するデータフォーマットの構成は

ヘッダー	なし
コードの種類	付加しない
桁数	付加しない
読み取りデータ	アスキーコード 128 種類すべて読み取り送出

ターミネーター            キャリッジリターン(CR)

通常バーコードリーダーは単独か、パソコンとキーボードの間に挿入接続しますが、パソコンとマウスと間には入れないでください。パソコンのポート(PS/2 か USB か)にあったコネクタのバーコードリーダーを購入してください。テストではキーエンス社の BL-N60V で行かないました。

コードレスバーコードリーダー コードレス型で移動しながらバーコードデータを収集できます。本体にデータ収集ソフト、それをパソコンに取り込むソフトがいます。テストではキーエンス社の BT-300A で行かないました。コードレス型で対応する機種はキーエンス社の BT-300A と BT-350A です。

注意    バーコードの印刷にはレーザープリンター等の高い印刷解像度が必要です。

**重要**    **バーコードリーダー、コードレスバーコードリーダー、およびコードレスバーコードリーダーの通信ソフトやコードレスバーコードリーダーのデータ収集ソフトは本プログラムに付属するものではありません。別途購入してください。**

ソフトウェア

Windows Vista/XP/7 オペレーティングシステム日本語版

(Windows95 では動作しません。Windows 98/ME/NT4.0/2000 での動作保証はいたしません。)

マイクロソフト Access2002 以降 2010 または Access 2002 ~ 2010 ランタイムが必要。本プログラムのインストーラーには Access ランタイムが含まれており、インストールするかしないか途中で選択できます。

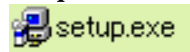
(Access 97、2000 では動作しません。)

## 1.2 インストールの仕方(セットアップとも言います。)

**別紙または本説明書 4 ページの使用許諾書に同意いただいてからインストールしてください。**

マート計測器管理プログラムのインストールは、通常 CD-ROM をセットすると自動起動して「次へ」... と肯定的にボタンを押していくとセットアップします。くわしい説明は「はじめにお読みください」説明書の「新タイプのインストーラー」の方をお読みください。

ダウンロードファイルでは圧縮ファイルをダブルクリックすると関連ファイルのはいったフォルダーごと展開解凍します。その中の setup.exe をダブルクリックします。



**注意** 他に起動しているソフトウェアはすべて停止させます。場合によっては常駐型ウイルス検知ソフトの使用するプログラムモジュールによってインストールが中断されることもあるのでその場合にはそれらも一時的に停止してください。マイクロソフトオフィスツールバーや一太郎のツールバー、エクスプローラーの表示も阻害要因になる場合もあります。インストール途中でメッセージがでた場合、それらを停止してください。

## 1.3 マイクロソフト アクセスのセキュリティレベル変更

Access2003、Access2007、Access2010 にはマクロウィルスから防護する観点からマクロ(ビジュアル・ベーシックを含む)をブロックする機能があり、セキュリティ管理しています。セキュリティレベルが中レベル以上だと弊社プログラムはビジュアル・ベーシックを実行できません。最初に起動したとき許可処置をする必要があります。

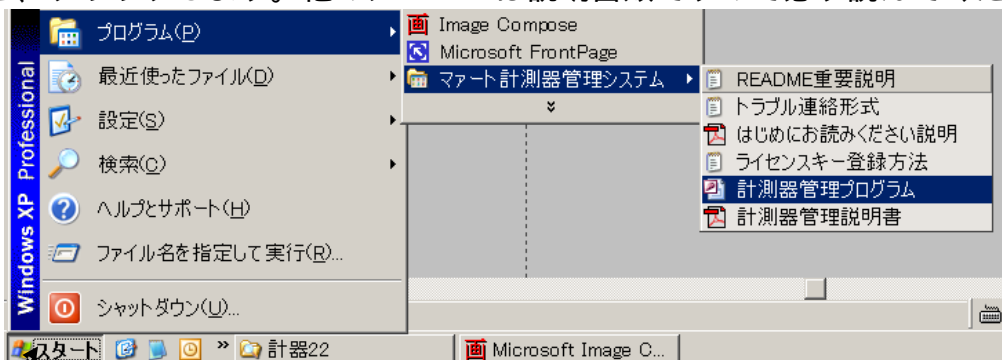
その方法は「はじめにお読みください」説明書の「Microsoft Access でのマクロ禁止の解除方法(重要)」の項をよく読んでください。

またはダウンロードファイルしたファイルを解凍展開した「計測器管理ランタイム ver x.xx」というフォルダーの中にある「Access マクロ解除.pdf」をよく読んでください。(ver x.xx の x.xx はバージョン番号で、バージョンアップにより変化します。)

## 1.4 起動と終了

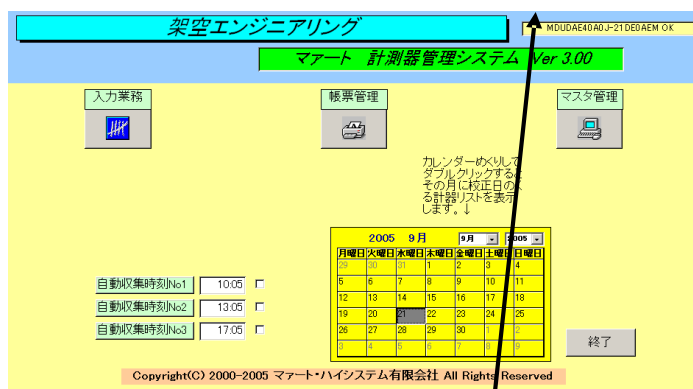
### 起動

Windows を起動した後、スタートボタンをクリック、「すべてのプログラム」または「プログラム」という項目にマウスポインタを移動してから、サブメニューの「マート計測器管理システム」にポインタを合わせ、さらにそのサブメニューの「計測器管理プログラム」にポインタを合わせ、クリックします。他のメニューは説明書類ですので必ず読んでください。



スタートボタン

下図のような画面が現れます。この画面をメインメニューと呼びます。



ライセンス番号

ツールバーなどの表示が完全に完了してから、メインメニュー上の各ボタンで次のような処理の実行を指示できます。選択方法は絵のある各ボタンを押しプルダウンするメニューをマウスクリックします。

マスター管理	運用基本的事項関連
基本情報設定	基本情報の設定を行います。
システムデータ	運用に必要な基礎データの管理画面です。
履歴データ削除	月次データの削除をします。
データバックアップ	データすべての保存と復元を管理します。

入力業務	計器登録と入力業務全般
計器登録	計器データの入力変更をします。
履歴データ入力	履歴データの入力変更をします。
バーコード入力	コードレスバーコードリーダーのデータを取得します。

貸出・返却管理	履歴データから貸出と返却の抽出をします。
修理・返却管理	履歴データから修理と修理返却の抽出をします。
在庫確認	履歴データから在庫確認データの抽出をします。
帳票選択	印刷全般
印刷帳票選択	各種帳票の印刷指令を行います。
バーコード印刷	計器と担当者のバーコード印刷を行います。
計器検索印刷	計器の各項目を検索条件として抽出し帳票を選択します。

## 終了

メインメニューから選んだ作業が終了したら、メインメニューに戻ります。すべてのデータはそれぞれの画面で入力したら即時記録されます。しかし終了する前に全体のデータバックアップ保存した方が事故災害等から安全です。「終了」ボタンをクリックすると、「データバックアップしますか」という確認メッセージを出します。「いいえ」を選択すればそのまま終了します。「はい」を押すと「IM 年月日数字 - 時刻数字.MHCA」形式のファイル名が入力された圧縮データバックアップ画面を表示します。保存をしてから再度「終了」ボタンを押したときにはバックアップ確認メッセージは表示せずプログラムは終了します。終了すると Windows の画面に戻ります。バックアップは通常 10 秒から 20 秒程度で終了するのでめんどうがらず実施した方が無難です。次回に必ずパソコンが故障なく起動するとはかぎらないからです。

メインメニューから選んだ作業が終了したら、メインメニューに戻ります。すべてのデータはそれぞれの画面で入力したら即記録されます。しかし終了する前にデータバックアップ保存した方が事故災害等から安全です。

## 1.5 用語説明

この説明書では以下のように用語を定義します。

履歴データ 計器の貸出、返却、修理、修理返却、在庫確認のデータをいいます。

計器 計測器、測定器、計器ともいいますがこの説明書では計測器または計器という単語を同様の意味として使用します。

ユーザー定義チェック 「基本情報」「システム」のタブでユーザーが定義した項目名のチェックボックスに Yes/No を選択できます。

ユーザー定義項目 「基本情報」「システム」のタブでユーザーが定義した項目名の項目に 50 文字までデータを入力できます。

コードレスバーコードリーダー バーコードデータを読み取るコードレスのバーコードリーダーのことです。キーエンス社の BT300/350 を想定しています。

バーコードリーダー パソコンとなんらかのインターフェースを通じてコードで接続する普通のバーコードリーダーです。本書ではコードレスのバーコードリーダーはコードレスバーコードリーダー、コード有りのリーダーをバーコードリーダーとあらかし明確に区別し



ます。

#### 本書での表現

本書で説明する画面を表示するための操作順序はかぎ括弧「」で表示します。通常はメインメニュー画面からのメニューの選択順序になります。「マスター管理」「システムデータ」「運転者コード」と表現してあったら「マスター管理」ボタンを押しプルダウンするメニューから「システムデータ」の項目をマウスクリックし選択し「運転者コード」ボタンを押すことを意味します。

#### 入力用ソフトウェア部品の説明

ツールバーやコンボボックス、プリンターの設定、入力窓の色による区別等については「はじめにお読みください」説明書の方に記述してあります。一部についてはここで記述します。日付入力形式は yyyy/mm/dd(例 2001 年 1 月 24 日なら 2001/1/24)と入力します。曜日を表示するタイプでは日付をいれると自動で表示されます。

**重要** 「はじめにお読みください」説明書の「日付形式の変更」の項目を必ず読んで実施してください。Windows Me 以降の OS では標準で年 4 桁日付形式になっています。Win 98 等、その前は 2 桁日付が標準になっています。(いわゆる 2000 年問題です。)

本プログラムはインターネット時代であるため一切の半角カタカナは使用していません。

## 第2部

# 導入

## 2.1 導入時の各種設定

計測器管理プログラムを実際にお使いになる際、以下のように最初に入力設定をしていただきたい項目がいくつかあります。

基本情報(名称、住所、郵便番号とその後に**ライセンスキー**は必ず入力してください)

各種システムデータ (初期値設定済みのものもあります。)

計測器データ登録

運用



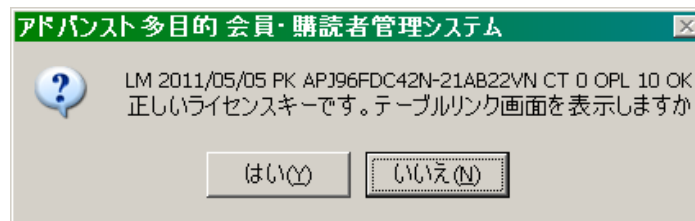
合もあります。)

名称や電話番号、住所、郵便番号を入力してからライセンスキーを入力します。この場合、郵便番号は必ず半角文字で入力し3桁目と4桁目の間にはマイナス記号をいれます。(自動ではいりません。) ライセンスキーにはほぼ真中に必ずマイナス記号がありますがそれも必ず入力します。キーを1度入れてEnterキーを押すとすると正しいか間違いかの判定が出来ます。画面を閉じて再表示したときにはキーは消えます。キーが正しくないまたは未入力の場合、最初の起動から2週間後からプログラム起動回数が30回を超えた時点または3週間後に無条件で使用できなくなります。この場合、入力したデータは削除されません。保持されていますが使用できなくなります。またプログラムを再インストールすると出荷時の空のデータに置き換わってしまいますので注意してください。

一旦使用できなくなったプログラムは正規のライセンスキーを入力後(登録完了とメッセージが出来ます。正しくないともちがいですと出ます。) 入力欄右にある「確認」ボタンを押します。

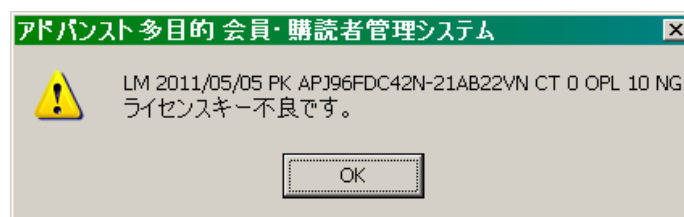


正しい場合は下図のようなメッセージが出ます。「はい」を押すとテーブルリンク画面が表示されるので「リンク」指令ボタンを押してデータベースとリンクしてください。正しいはずなのに「ライセンスキー不良です」と出る場合は画面を閉じてメインメニューから再度、基本情報画面を開いて押してみてください。



または「マスター管理」「データバックアップ」「リンク」と選択し表示されるテーブルリンク画面で既定リンク先に指定ボタンを押してからリンク指令ボタンを押して再び使用できるようになります。

「確認」ボタンでライセンスキーが違う場合には下図メッセージが出ます。

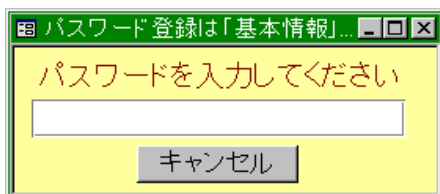


名刺肩書、氏名 市販のA4名刺用紙に印刷できます。プリンターによっては余白の調整が必要なときもあります。エーワン(株)の品番51002用紙に対応しています。他社もほぼ同サイズです。

CK1-8の定義 計測器登録画面では任意に定義し使用できるチェックボックスが8つあります。ここで定義した名称がそのチェックボックスの横に表示されます。

プログラム終了時最適化する ここにチェックがあるとプログラム終了時に自動でプログラムのごみを取る最適化を実行します。そのためプログラムの終了が少し遅くなります。

パスワード                   このプログラムを不用意に第3者に起動、操作されるのを防止するために設定します。パスワードを設定し、次回プログラムを起動すると次図が表示されます。正しいパスワードをいれない場合、プログラムは終了します。



パスワードを設定すると入力した文字数分の\*が表示されます。変更するにはこの\*\*を消してから登録してください。使用しない場合には、\*を全部消してください。

**重要**   パスワードは忘れないように対策してください。忘れたパスワードは弊社でも回復できません。その場合プログラムは2度と起動できません。このパスワードはプログラムに格納されるのではなくデータファイルに格納されます。したがって別のプログラムやネットワークからの他のパソコンからも起動することはできません。再インストールしても今までのデータファイルを使用するかぎり同じです。

画面下部の機能ボタン説明。[]の中は対応するファンクションキー名です。

閉じる【F8】           メインメニューにもどります。

## 2.3 システムデータ

メインメニューから「マスター管理」「システムデータ」で下図を表示します。

これらはコード番号と名称から構成されており、登録するデータの一意性と入力の利便性を確保する目的で作成されています。計器登録データにはこれらシステムデータのコード番号が格納されます。1度決定し、運用開始したコード番号は変更しないでください。

コード番号について

計器種類コードをはじめ担当者コードなどこのシステムはコードでデータの一意性を確保しています。コードは通常数字で作成しますが文字の羅列であり、自然数ではありません。たとえば001と1は別なコードとなります。並ぶ順序は1番左端の数字の大小で並び、次に左から2番目の数字の大小で並びます。その次は3番目と続きます。したがって1024と25のコードがあったとすると数字とすれば1024の方が大きな数字で並び順としては後になるはずですがこのシステムでは25の方が後に並びます。(左端の最初の数字が1であるので1024が前にくる。)

計器種類コードの桁数は最大5桁ですがそれ以下なら何桁でも可能です。しかし将来の拡張や数字の範囲で商品の分類をする場合もあると思いますので少なくとも3桁以上で計器種類コードを作った方がよいと思います。その場合、たとえば10番も010というように頭に0をつけてすべてのコードの桁をそろえてください。

その他補助的データのコードもこれに準じます。

なお計器コードについては10001番から自動で発番されていきます。変更はできません。削除した場合には欠番になります。

**重要** コードのあるデータタイプはすべてそのコードをデータとして伝票等に格納します。したがってある計器種類のコードを運用途中で25から0025に変更したとしたら25を使用していた時期の伝票と0025を使用している履歴データで一貫した処理はできません。それらの名称が同一でもコードが違う場合には別の計器種類として処理します。逆に計器種類名が変わって名称を変更してもコードが同じなら一貫して処理します。またコードを変えて古い方のコード(この場合25)を削除するとそのコードで作成したデータそのものを表示できなくなる場合もあります。(データそのものは残っています。25のコードをもう1度作成すれば表示できます。)したがって不用意に削除しないでください。担当者についてもその人が仮に退職したとしても少なくとも年度中は残しておいてください。削除すると該当データは表示できないばあもあります。

コードの命名原則は導入時に慎重に計画して運用してください。

またすべての種類で0、00、000、0000 や 99、999、9999 という番号だけのコードもあります。これも削除しないでください。未選択の場合の初期値として使用しています。

**計器種類** 計器の種類を登録します。電流計、記録計などです。代表的初期値登録済みです。コード番号は3桁以上で同じ桁数で統一して作成してください。コード番号 000 は削除しないでください。

**計器区分** 計器の管理区分を登録します。社内基準計器、一般計器などです。代表的初期値登録済みです。コード番号は3桁以上で同じ桁数で統一して作成してください。コード番号 000 は削除しないでください。

**メーカー** 計器メーカー名を登録します。代表的初期値登録済みです。コード番号は3桁以上で同じ桁数で統一して作成してください。コード番号 000 は削除しないでください。

**担当者** 計器を貸借する係員や購入管理する担当者名を登録します。ダミーの名称が登録されていますので変更してください。コード番号は3桁数字で最初の数字が0のコードは使用しないでください。初期値で100からになっています。コード番号100は削除しないでください。

**管理部門** 担当者が所属する部門を登録します。ダミーの名称が登録されていますので変更してください。コード番号は3桁以上で同じ桁数で統一して作成してください。コード番号 000 は削除しないでください。

**購入先** 計器を購入した商社、等を登録してください。メーカーを登録する場合もあります。コード番号は3桁以上で同じ桁数で統一して作成してください。コード番号 000 は削除しないでください。

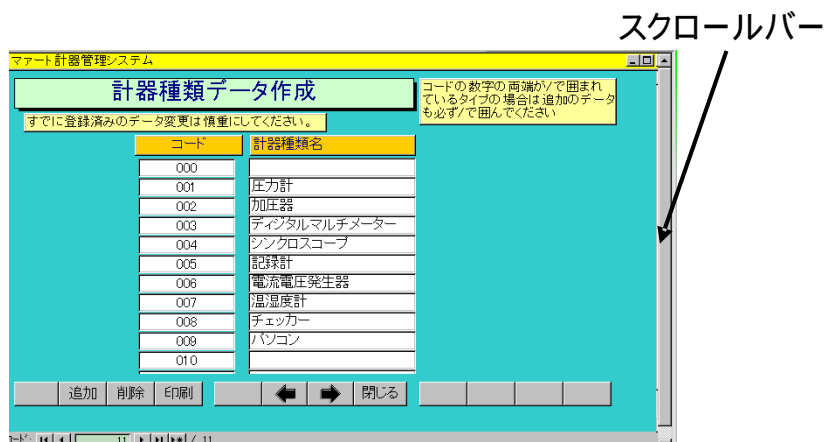
操作はすべて共通です。例として計器種類の画面で説明します。メインメニューから「マスター管理」「システムデータ」「計器種類コード」を選択すると下図が表示されます。

変更する場合は変更箇所をマウスでクリックしてデータを入力します。項目を追加する場合は下部の機能ボタン「追加」を押します。すると未入力の新規コードの行にカーソルが移動します。



コード 必ず3桁の数字を入力してください。(1番なら001としてください。)すでに登録されたものと同じコード番号は使用できません。

計器種類名 登録すべきデータ名称をいれてください。



画面下部の機能ボタン説明。[]の中は対応するファンクションキー名です。

追加[F2] 新しいデータの登録を開始します。

削除[F3] カーソルのある行のデータをマスターから削除します。

印刷[F5] データリストを印刷します。

左右の矢印[F6,7] 上下のデータ行に移動します。

閉じる[F8] メインメニューにもどります。

## 2.4 履歴データ削除

メインメニューの「マスター管理」「履歴データ削除」で下図を表示します。

データ削除期間の終了年月は6ヶ月以前の日付に設定できます。もし削除する場合は事前にデータバックアップで「日付保存」をしてください。ここで一括削除されるのは履歴データのみでシステムデータや計器登録データは削除されません。

現在のパソコン環境では数年分ぐらいはさしたる負荷にはなりませんので数年に1度程度の頻度での削除を推奨します。

削除開始にあたり開始日と終了日の逆転や6ヶ月未満の場合、メッセージがでます。最後に確認メッセージがでて実行します。

画面下部の機能ボタン説明。[]の中は対応するファンクションキー名です。

実行[F5] データ削除を開始します。

閉じる[F8] メインメニューにもどります。

## 2.5 データバックアップ

メインメニューの「マスター管理」「データバックアップ」を選択するとデータバックアップの画面を表示します。データバックアップ保存の説明は「はじめにお読みください」説明書の方に記述してありますのでそちらを参照してください。

**重要** 不慮の事態にそなえてデータのバックアップは最低毎月、月初か月末の時点等でデータを日付保存(保存した日付がファイル名になりどれが最新かすぐにわかります。)で外部のメディア(USBメモリーやCD-R/RWがのぞましい)にバックアップすることを推奨します。フロッピーディスクは20世紀の遺物で信頼性が極端に低いので推奨できませんが2枚とれば気休め程度にはなります。

ハードディスク等が故障して修理完了した場合、プログラムはCD-ROM等から再インストールして復元できますがデータはバックアップがなければ回復はできません。(パソコンの部品で一番故障する可能性が高いのは超高速で常時回転しているハードディスクです。)

また、ときどきバックアップデータを復元して復元が可能か確認してください。

**注意** IMsamp.MHCを選択復元するとサンプルデータをみれます。また初期化空.MHCを復元すると出荷時データになります。これらを復元する前に自分で作成したデータは別の名称であらかじめ保存してください。

## 第3部

# 基本操作

### 3.1 概要

操作のフロー

計器登録

履歴入力

手動入力またはコードレスバーコードリーダーのデータ転送

貸出・返却の管理画面

修理・返却の管理画面

在庫確認画面

これらのうち「貸出・返却の管理画面」、「修理・返却の管理画面」、「在庫確認画面」はすべて履歴入力画面で入力した履歴データをそれぞれの機能別に表示または2次的データを作成しているものです。したがって、計器に出入りに関してはすべて履歴入力で行ないます。さらに履歴入力ではコードレスバーコードリーダーのデータからの転送やバーコードリーダーによる読み取り入力が可能です。

### 3.2 計器登録

メインメニューの「入力業務」「計器登録」を選択すると下図を表示します。画面は「基礎」と「ユーザー定義・履歴」の2つのタブにわかれています。タブのタイトルを押すと切り替わ

ります。

ここでは新規計器の登録、登録済み計器のデータ変更、削除が行なえます。画面上部に計器コードと管理番号が表示されていますが、ここでは変更できません。「基礎」タブで管理番号は変更できます。この表示はタブを切り替えたとき、どの計器かわかるようにするためにあります。

計器コード 自動発番で通常 100001 番から始まります。このデータは主にバーコードを作成するために使用するものでユーザーが変更することはできません。ユーザーが独自に管理するのは次項にある管理番号を使用してください。

登録 現在存在する計器であることを示します。廃棄した計器だがデータのみ残しておきたい場合、ここのチェックをはずします。初期値では Yes にされます。

管理番号 事業所で使用する任意のテキストデータを入力します。通常、計器使用または計器管理部門が使用します。 **必ず登録してください**

資産番号 事業所で使用する任意のテキストデータを入力します。資産として管理する必要がある計器について財務経理部門が付けている資産番号です。

資産対象 資産であるかどうかチェックをいれます。対象の場合に Yes にしてください。

計器名/機種名 計器メーカーが付けている商品名があれば入力します。

製造番号 計器の製造番号です。

計器種類 計器の種類を登録します。電流計、記録計などです。コンボボックスからの選択です。

計器区分 計器の管理区分を登録します。社内基準計器、一般計器などです。コンボボックスからの選択です。。

メーカー 計器メーカー名を登録します。コンボボックスからの選択です。

管理部門 担当者が所属する部門を登録します。コンボボックスからの選択です。

担当者 計器を管理する担当者を登録します。コンボボックスからの選択です。

購入先 計器を購入した商社、等を登録します。コンボボックスからの選択です。

登録日 通常当日が自動入力されます。日付入力はすべて yyyy/mm/dd 形式で行ないます。(例 2001 年 4 月 1 日なら 2001/4/1 か 1/4/1 とする)

購入日 購入日を登録します。

廃棄日 計器を廃棄した日付を入力します。除却しても使用している場合もあるので別項目としてあります。

除却日 資産からはずした日付を入力します。

減価期間 減価償却期間をいれておきます。

購入価格 実際の購入価格を入力します。

定価 定価を入力します。

単位 必要なら入力します。

サイズ サイズが必要なら入力します。

質量 必要なら入力します。

定格 必要なら入力します。

備考 必要なら入力します。

校正期間 校正する周期の入力です。入力する単位はユーザーの方で年とか月とか統一して決定しこの欄には数値のみ入力します。

次回校正日 校正するたびに次回校正日を更新してください。

耐用年限 最終年限を日付で入力します。

画像 計器のイラスト、デジタルカメラの画像などを登録できます。写真、画像と

も拡張子が bmp、tiff、jpg のものを貼り付けることができます。Windows に付属のペイントや市販の画像編集ソフトで作成したそれら拡張子のデータをコピー&ペーストで貼り付けます。

画像を貼り付けるとこのデータベースのファイル容量が急速に増えていきますので、こまめにバックアップ保存することを推奨します。

ユーザー定義チェック1-8 「基本情報」の「システム」タブページで設定した名称が表示されます。項目名のチェックボックスに Yes/No を選択できます。8 つありますので事業所固有の項目などに使用できます。

ユーザー定義項目1~8 「基本情報」「システム」のタブでユーザーが定義した項目名の項目に 50 文字までデータを入力できます。こちらも 8 つあります。

ユーザー定義チェックボックス		ユーザー定義項目			
貸し出し禁止	No	特記事項		未定義項目5	
他部門貸出厳禁	Yes			未定義項目6	
他部門有償貸出	No	注意事項	なし	未定義項目7	
任意チェック4	No	未定義項目3		未定義項目8	
保修部品取り用	No				
任意チェック6	No	未定義項目4			
任意チェック7	No	履歴			
任意チェック8	No				

### 履歴


次項 3.3 履歴入力で入力したデータのうち、この画面に表示してある計器の分のみを日付の新しい順に表示します。

履歴	履歴番号	年月日	履歴タイプ	担当者名	備考
表示	72	2003/07/26土	修理	担当1	
表示	71	2003/07/24木	貸し出し	メイン担当者	
表示	69	2003/07/24木	貸し出し	メイン担当者	
表示	87	2003/07/21月	在庫確認	担当1	
表示	62	2003/07/20日	修理返却	担当2	
表示	61	2003/07/19土	修理	担当3	

この画面でデータ変更はできません。その行の表示ボタンを押すと履歴入力画面に飛びます。

### 検索移動

画面上部に下図があります。

検索移動  

計器名、型番、コード、管理番号、資産番号、担当者名、メーカー名、種類名のどれかで検索します。

水色の欄にマウスカーソルを移動する示されるヒントテキストのように計器名や管理番号、計器種類名等の文字の一部をいれて Enter キーを押すか隣の検索移動ボタンを押すと該当候補計器が下記ウインドウに表示されます。

その中から対象計器の左の選択ボタンを押すとその計器に画面が移動します。

	計器コード	管理番号	計器名	最終履歴	年月日	メーカー	型番
選択	100002	GG-4512	30cm円形	返却	2006/03/17	堀場山	DFF-8520
選択	100004	kki-85	ストレージスコープ	貸し出し	2005/10/31 14:23:20	サニータクトロ	223
選択	100005	ASD-8589		返却	2006/03/17	大川計測器	
選択	100006	XDF-963		修理	2006/03/26 10:10:58	横山電機	
選択	100007	GG-9666		修理返却	2005/10/31 14:38:57	大川計測器	
選択	100008	yy-96-631	新型記録計	修理	2006/03/26 10:11:21	横山電機	sinreco
選択	100009	ZXC-125-9654		修理	2006/03/26 10:11:39	横山計測器	
選択	100010	YY-9630	アドシンクロスコープ				

該当がないときは「キャンセル/閉じる」ボタンを押します。

画面左下にあるレコード移動ボタン群については「はじめにお読みください」説明書のソフトウェア入力部品の項を参照してください。

画面下部の機能ボタン説明。[]の中は対応するファンクションキー名です。

追加[F2] 新規登録の画面に移動します。

削除[F3] 表示している計器のデータを削除します。新規入力中は削除できません。

印刷[F4] 表示している計器を検索した状態の検索結果画面を表示します。検索結果画面の説明は 4.3 計器検索印刷の項を参照してください。

左右の矢印[F6,7] 前後の計器データに移動します。

閉じる[F8] メインメニューにもどります。

### 3.3 履歴データ入力

メインメニューの「入力業務」「履歴データ入力」を選択すると下図を表示します。

スクロールバー

計器の貸出・返却・修理・修理返却・在庫確認のデータ入力に使用します。過去のデータを見る場合にはスクロールバーを上を上げていくと見ることができます。

各入力欄の色についてはメインメニューで「計測器管理システム」というプログラム名をマウスクリックすると表示説明がでますのでそれを参照してください。白色と黄色の欄が入力可能です。

**履歴番号** 自動発番で変更できません。

**履歴年月日** 表示するとき曜日もですが入力するときは yyyy/mm/dd 形式でいれます。新規入力の場合、当日が既定値として出ます。

**SEL** 黄色い SEL ボタンを押すと年月日欄全体が選択されるので日付を変更する場合に便利です。

**履歴タイプ** コンボボックスから選択します。貸出・返却・修理・修理返却・在庫確認

**担当者** 貸出・返却・修理・修理返却・在庫確認の相手氏名を選択します。

**計器コード** 対象計器の計器コードを入力します。下記検索選択が便利です。

78	2003/07/26土	10007	104	計器太郎	パソコン
検索選択		4	修理返却	GG-9666	
計器名、型番、コード、管理番号、資産番号、担当者名、メーカー名、種類名のどれかで検索します。					
79	2003/07/26土	10001	104	計器太郎	パソコン

**検索選択** 計器登録画面での検索移動と同様の操作で水色欄に対象計器の名称、種類等で検索し、計器選択ウインドウから選択すれば計器コードが入力できます。

**使用場所、備考** 必要な事項を入力します。

**金額** 有料貸し出しや修理費を入力できます。

**削除ボタン** その履歴行を削除します。確認メッセージがでます。

**履歴番号順、年月日順、履歴タイプ順** 表記の順序にデータを並び替えます。



## バーコードリーダー入力

画面上部の「バーコードリーダー入力」ボタンを押すと対応と表示がかわり白色から変わった黄色いエリアにリーダーでデータ入力できるようになり新規行に移動します。入力順序は計器コード、担当者コード、履歴タイプです。この3つを繰り返します。(Tab キーで次の入力欄に移動もできます。)

計器コード	担当者コード、名称	計器種類
履歴タイプ、名称	管理番号	計器型番
/14月	10001 102 担当1	シンクロス
4 修理返却	SF-9663	DD-125-963
/19土	0 102	

なお「マスター管理」「システムデータ」「システムパラメーター」の11番と12番で担当者の初期値とバーコード入力の対応を変更できます。

選択値	説明値	番号
102	履歴入力担当者初期値	11
0	バーコード入力許可	12
2	標準在庫確認日数	21

11番の選択値にいった担当者コードが初期値として表示されます。12番の選択値を0で手動入力(バーコード入力不対応状態)で最後の履歴データにカーソルがある画面が表示されます、1でバーコード入力ボタンを押した状態(バーコード入力対応状態)で新規行にカーソルがある画面が表示されます。

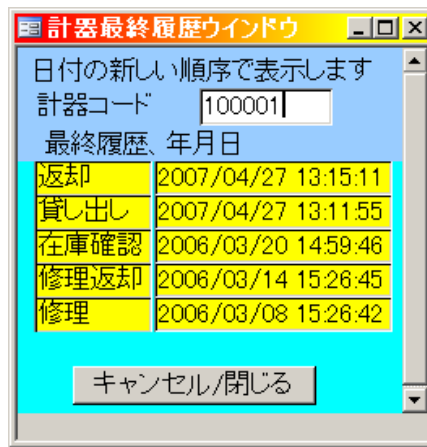
**重要** 計器の貸出・返却・修理・修理返却・在庫確認については矛盾のないように入力してください。たとえば同じ計器について続けて貸出があるとか貸出と返却の間に修理があるとかいうことはありません。貸出には返却が、修理には修理返却がペアとなります。修理からもどってきた計器には返却ではなく、修理返却を指定してください。

## 最終履歴表示ウインドウ

計器コードを選択するか、手動で入力するか、ダブルクリックするとその計器の履歴タイプごとの最終データの年月日と時刻のある場合は時刻を表示するウインドウを出すことができます。この場合、日付の新しい履歴タイプを一番上に表示します。日付順表示です。またその行の履歴番号をダブルクリックしても表示します。

このウインドウはメインメニューから「マスター管理」「システムデータ」「システムパラメー

ター」の 31 番が 1 だと表示し 0 だと表示しません。

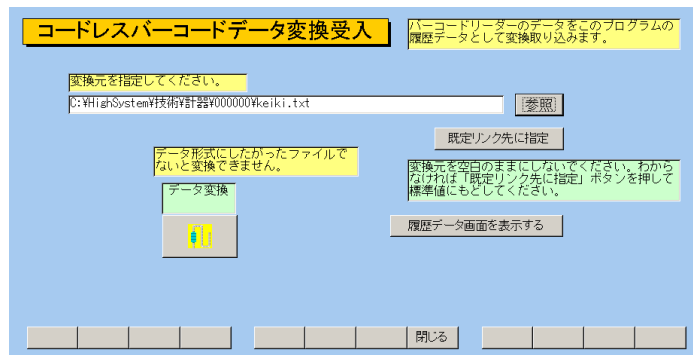


画面下部の機能ボタン説明。[]の中は対応するファンクションキー名です。

- 追加 [F2] 新規登録のデータ行に移動します。
- 削除 [F3] カーソルのある履歴データ行を削除します。
- 左右の矢印 [F6,7] 上下の計器データ行に移動します。
- 閉じる [F8] メインメニューにもどります。

### 3.4 コードレスバーコードリーダーデータ変換入力

メインメニューの「入力業務」「バーコードデータ」を選択すると下図を表示します。



BT-300A データ管理ソフトで通常変換元を示されるファイルから履歴データが送られてきます。

- 1 BT-300A データ管理ソフトで手動データ受信をします。
- 2 この画面で「データ変換」ボタンを押します。確認メッセージがでてからデータ変換をします。終了メッセージがでて完了です。

BT-300A データ管理ソフトとコードレスバーコードリーダーの操作については 3.9 コードレスバーコードリーダー操作の項目を参照してください。

通常の変換元ファイルのフルパスは C:\¥HighSystem¥技術¥計器¥000000¥keiki.txt です。

**重要** 変換元ファイルのフルパス欄は空白のままにはいけません。

このフルパスは自動収集のためにも必要ですので 1 度は必ず確認してください。「既定リンク先に指定」ボタンを押すと通常の変換元のフルパスがはいります。

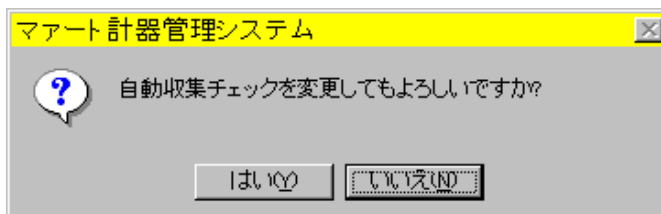
### 3.5 コードレスバーコードリーダーデータ自動収集

メインメニュー画面下部に下図があります。

自動収集時刻No1	10:05	<input checked="" type="checkbox"/>
自動収集時刻No2	13:35	<input checked="" type="checkbox"/>
自動収集時刻No3	17:05	<input checked="" type="checkbox"/>

BT-300A データ管理ソフトで自動収集するデータを時刻指定で取りこみます。通常 BT-300A データ管理ソフトでは 10 時、13 時半、17 時に収集するように設定します。これはそれよりも若干遅い時刻に設定します。(初期値では 5 分遅くしてあります。)  
収集が完了した時刻欄は緑色になります。未収集、収集失敗(収集時刻にこのプログラムが起動していない場合)の場合には白色で表示されます。一番遅い時刻の収集が終わってから 30 分すると再びすべての欄は白色になります。プログラムを起動したときも白色です。また前項のバーコード手動入力画面を開いた後も白色にもどります。(上図では No1 が収集完了して緑色にかわっています。)

時刻窓の右側のチェックボックスはその時刻に自動収集を実行するかしないかのチェックです。チェックしてあれば収集します。チェックを変更しようとするすると下図の確認メッセージがでます。



Windows はマルチタスク OS ですからプログラムを起動しておけば他のソフト(ワープロ、表計算ソフトなど)を使用してもかまいません。自動収集時刻になるとビービービーとビーブ音が 3 回鳴ります。なお自動収集をする場合は自動収集時刻設定してあるメインメニュー画面を表示しておいてください。他の画面のときには自動収集できません。

BT-300A データ管理ソフトとコードレスバーコードリーダーの操作については 3.9 コードレスバーコードリーダー操作の項目を参照してください。

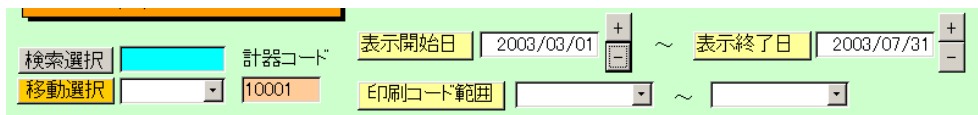
### 3.6 貸出・返却管理

メインメニューの「入力業務」「貸出・返却管理」を選択すると下図を表示します。



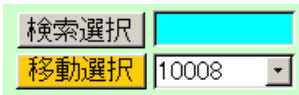
履歴データから計器ごとの貸出と返却の照合リストが表示されます。この画面ではデータの変更はできません。返却が行なわれていない履歴については貸出データのみ表示します。

通常は当月の 1 年前の月初日と月末日の期間について表示しますが画面上部の日付範囲で日付を変更すると変更期間のデータにかわります。+ と - のボタンで月数のアップダウンができますが、直接日付を入力することもできます。なお「マスター管理」「システムデータ」「システムパラメーター」の 22 番で表示開始日を変更できます。



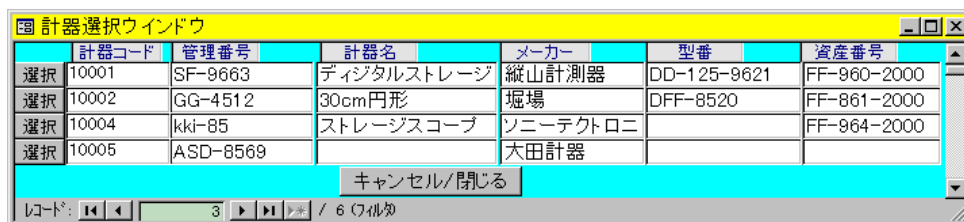
計器の変更は機能ボタンで左右の矢印ボタンを押すか、履歴データでの検索選択と同様の検索によるダイレクト移動か、移動選択用コンボボックスによる計器コードの選択で行なえます。

画面上部左に下図があります。



水色の欄にマウスカーソルを移動する示されるヒントテキストのように計器名や管理番号、計器種類名等の文字の一部をいれて Enter

キーを押すか隣の検索移動ボタンを押すと該当候補計器が下記ウインドウに表示されます。そ



の中から対象計器の左の選択ボタンを押すとその計器の貸出・返却画面に移動します。

該当がないときは「キャンセル/閉じる」ボタンを押します。

移動選択ではその右横にあるコンボボックスで選択した計器の貸出・返却画面に移動できます。

印刷用の計器コード範囲を設定する窓がありますので特定の計器または計器の範囲で印刷するとき指定できます。範囲を指定せず機能ボタン印刷を押すとすべての計器が印刷範囲になります。

履歴サブウインドウの個々の行の編集ボタンを押すとそのデータのある履歴入力画面に飛び

ます。

画面下部の機能ボタン説明。 []の中は対応するファンクションキー名です。

印刷【F4】 貸出・返却リストの印刷プレビューを示します。

再表示【F5】 再度表示しなおします。

左右の矢印【F6,7】 前後の計器の履歴画面に移動します。

閉じる【F8】 メインメニューにもどります。

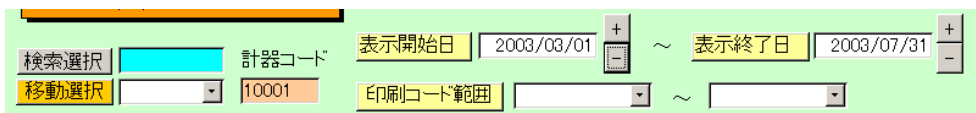
### 3.7 修理・返却管理

メインメニューの「入力業務」「修理・返却管理」を選択すると下図を表示します。



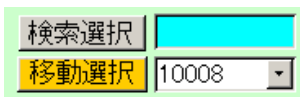
履歴データから計器ごとの修理と修理返却の照合リストが表示されます。この画面ではデータの変更はできません。修理返却が行なわれていない履歴については修理データのみ表示します。

通常は当月の 5 年前の月初日と月末日の期間について表示しますが画面上部の日付範囲で日付を変更すると変更期間のデータにかわります。+ と - のボタンで月数のアップダウンができますが、直接日付を入力することもできます。なお「マスター管理」「システムデータ」「システムパラメーター」の 23 番で表示開始日を変更できます。

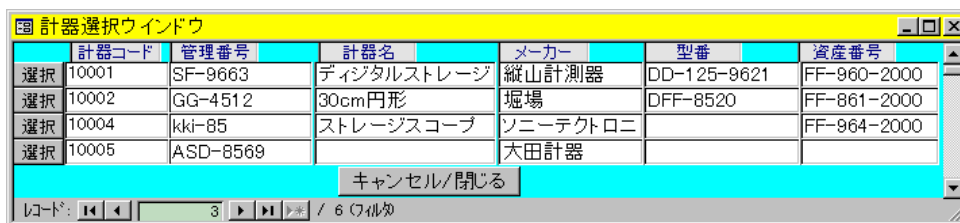


計器の変更は機能ボタンで左右の矢印ボタンを押すか、履歴データでの検索選択と同様の検索によるダイレクト移動か、移動選択用コンボボックスによる計器コードの選択で行なえます。

画面上部左に下図があります。



水色の欄にマウスカーソルを移動する示されるヒントテキストのように計器名や管理番号、計器種類名等の文字の一部をいれて Enter キーを押すか隣の検索移動ボタンを押すと該当候補計器が下記ウインドウに表示されます。そ



の中から対象計器の左の選択ボタンを押すとその計器の修理・返却画面に移動します。

該当がないときは「キャンセル/閉じる」ボタンを押します。

移動選択ではその右横にあるコンボボックスで選択した計器の修理・返却画面に移動できます。印刷用の計器コード範囲を設定する窓がありますので特定の計器または計器の範囲で印刷するとき指定できます。範囲を指定せず機能ボタン印刷を押すとすべての計器が印刷範囲になります。

履歴サブウィンドウの個々の行の編集ボタンを押すとそのデータのある履歴入力画面に飛びます。

画面下部の機能ボタン説明。[]の中は対応するファンクションキー名です。

印刷[F4] 修理・修理返却リストの印刷プレビューを示します。

再表示[F5] 再度表示しなおします。

左右の矢印[F6,7] 前後の計器の履歴画面に移動します。

閉じる[F8] メインメニューにもどります。



### 3.8 在庫確認

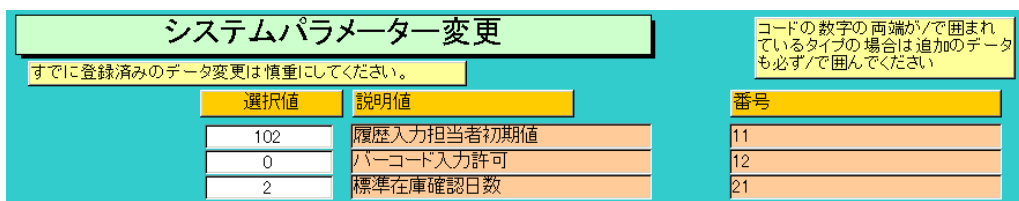
メインメニューの「入力業務」「在庫確認」を選択すると下図を表示します。



履歴データからそれぞれの計器についての在庫確認リストを作成します。この画面ではデータの変更はできません。履歴データの履歴タイプのうち「在庫確認」履歴タイプのデータを収集するものです。

#### 在庫リスト作成方法

- 1 通常は当日が確認開始日に入力され、「マスター管理」「システムデータ」「システムパラ



メーター」の 21 番で在庫確認日数の選択値に入力してある日数を加えた日付が終了日に入力されますが在庫確認がその日数ではなくある範囲の期間で行なわれる場合には変更してください。

2 機能ボタン「作成」を押すと、同一期間の在庫確認リストが存在する場合、メッセージが出て作成できませんので必要なら在庫確認リストサブウィンドウで該当リストの削除をします。さらに確認メッセージが出て「はい」ボタンを押すと計器登録で登録チェックがいてある全計器のリストがつくられ、その中に指定期間内の履歴データから履歴タイプが「在庫確認」のデータを収集します。リストが作成されると収集期間を表示した在庫確認データが下記の在庫確認リストサブウィンドウに表示されます。ここには過去に作成したリストもすべて表示されています。



したがって在庫確認リスト作成後に新たな在庫確認の履歴データが発生した場合、その在庫確認リスト行の再収集ボタンを押してデータの再収集をします。または在庫確認期間を延長して(日数をふやして)作成ボタンを押してください。

**重要** 一旦作成した在庫確認リストには作成後、その期間内に新たに在庫確認の履歴データ

が発生しても反映しません。必要なら再収集ボタンを押してデータ更新します。これはある時点での在庫確認を固定するためにスナップショットにデータを収集するためです。さらに在庫確認チェックリスト内のメモ欄は履歴データのメモ欄の値がコピーされるもので、在庫確認チェックリスト内のメモ欄に入力はできません。

画面下部の機能ボタン説明。[]の中は対応するファンクションキー名です。

- 作成 [F5]      在庫確認リストを作成します。
- 閉じる [F8]      メインメニューにもどります。

### 在庫確認リストサブウィンドウのボタン説明

表示ボタン      押すと該当する在庫リストを下図のように表示します。

個別在庫チェックリスト				確認開始 - 終了日		
確認日	計器コード	管理番号	資産番号	計器名	計器種類	メモ
	10001	SF-9663	FF-960-2000	デジタルストレ	シンクロスコープ	
	10002	GG-4512	FF-861-2000	30cm円形	圧力計	
	10004	kki-85	FF-964-2000	ストレージコー	シンクロスコープ	
	10005	ASD-8569			温度計	
	10006	XDF-963			電流電圧発生器	
	10007	GG-9666			パソコン	

確認日が空白の行は在庫確認されていない計器です。

印刷ボタン      在庫確認リストの印刷プレビューを表示します。印刷アイコンを押せば印刷します。確認日が空白の行は在庫確認されていない計器です。

削除ボタン      選択した在庫確認リストを削除します。確認メッセージがでます。

再収集ボタン      その在庫確認リスト行に示される日付期間で在庫確認履歴データを再収集します。確認メッセージがでます。

### 個別在庫チェックリスト画面

画面下部の機能ボタン説明。[]の中は対応するファンクションキー名です。

- 閉じる [F8]      在庫確認画面にもどります。

## 3.9 コードレスバーコードリーダー操作

### 1 データ収集ソフト

BT-300A 設定ソフトでコードレスバーコードリーダー用データ収集ソフトをリーダーに転送します。プログラムファイルのフルパスは C:\¥HighSystem¥技術¥計器¥計器管理 4.apl です。BT-300A を通信アダプタにのせ BT-300A 設定ソフトを起動し、上記ファイルを開き転送タブページから転送ボタンを押します。

### 2 データ収集受信ソフト

BT-300A データ管理ソフトを起動して「設定一覧」「システム設定」で同一ファイル名存在時上書き、通信速度を 115200 bps、ログデータフォルダーを C:\¥HighSystem¥技術¥000000¥計器とします。

自動 1、2、3 にチェックをいれ、起動日は 1 日から 31 日すべてにチェックをいれます。

自動 1 の時刻は 10 時。自動 2 は 13 時 30 分。自動 3 は 17 時としてください。

他の時刻に変更してもかまいませんがその場合、本プログラムのメインメニューに示される自動収集時刻 1 から 3 もそれぞれ 5 分ほど遅れた時刻に変更してください。

### 3 リーダーによるデータ収集

電源スイッチをいれます。

作業 No の入力というタイトルができるまで C キーを押します。

作業 No をいれます。貸出が 1、返却が 2、修理が 3、修理返却が 4、在庫確認が 5 です。これは履歴タイプの番号と同じです。

Enter キー(左下に下がる矢印キーです。)をおします。

担当者 ID を入力してくださいとなります。数字キーで番号をいれるか R か L のキーを押して担当者の名札のバーコードかバーコード一覧表から担当者を入力します。

計器コードを入力してくださいとなります。計器コードを数字でいれるか計器にはってあるバーコードシールを R か L のキーを押して入力します。

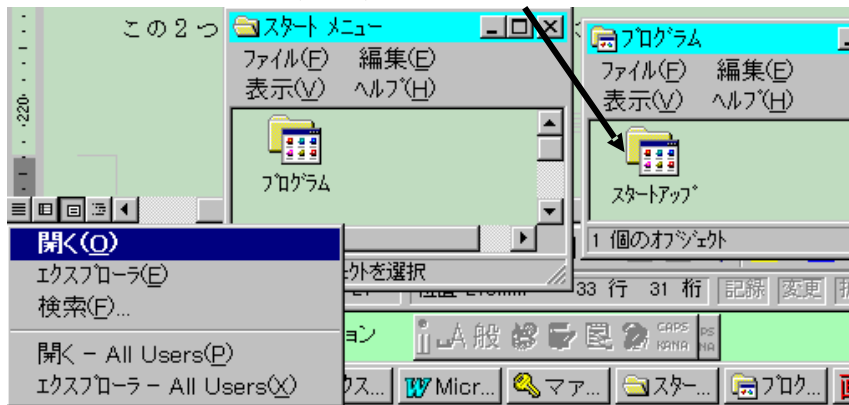
つづけて計器コードは入力できます。

終了した場合、C キーを何回か押して作業 No の入力のモードまでもどしておいてください。

### 4 収集データの取りこみ

BT-300A データ管理ソフトと本プログラムを起動しておきます。BT-300A を通信アダプタにのせておきます。自動収集時刻がくるとデータ収集します。

この 2 つのソフトを自動でいつもパソコン起動と同時に起動する場合にはそのショートカットをスタートボタン右クリック「開く」「スタートメニュー」「プログラム」「スタートアップ」のフォルダーに投入します。(下図)



Windows はマルチタスク OS ですからプログラムを起動しておけば他のソフト(ワープロ、表計算ソフトなど)を使用してもかまいません。自動収集時刻になるとビービービーとビーブ音が 3 回鳴ります。

手動の場合は BT-300A データ管理ソフトを起動して設定一覧から手動通信を選びます。その後、本プログラムのバーコードデータ画面からデータ変換ボタンを押します。

## 第4部

# 帳票選択

## 4.1 帳票選択

メインメニューの「帳票管理」「印刷帳票選択」を選択すると下図を表示します。

上の1つのボタンは「期間範囲指定」で指定した日付の履歴データの印刷プレビューを表示します。

下の4つのボタンは「計器管理カード」「計器管理リスト」「全履歴リスト」「資産計器リスト」の印刷プレビューを表示します。

カレンダーの日付を押すと「期間範囲指定」欄にその日付の月初日と月末日が入力されます。カレンダーには通常前後の月の端数日が表示されているのでそこを押すと月めくりして月めくりした月初日と月末日が入力されます。+と-のボタンで月数のアップダウンができますが、直接日付を入力することもできます。yyyy/mm/ddかyy/mm/dd形式(2002/2/4とか2/2/4と入力する。)で入力できます。

## 4.2 バーコード印刷

メインメニューの「帳票管理」「バーコード印刷」を選択すると下図を表示します。

上段のグループは計器のバーコードを印刷するもので印刷 P ボタンを押すと指定したタイプの帳票の印刷プレビューを表示します。この場合印刷する計器コードの範囲を指定しない場合は全計器が対象になります。

下段のグループは担当者のバーコードを印刷するものです。

### 帳票種類

**バーコードA4 全面シール** 全面シールの用紙に必要なコードの範囲を指定して印刷します。切り取るときは斜めに切らないようにします。横に3つ同じデータで印刷します。

**バーコードA4 3x7** 3列7段の用紙に必要なコードの範囲を指定して印刷します。

**バーコード付き一覧表A4** バーコードとデータを3列7段ですが1データについて1つずつ印刷します。

帳票の左にある黒丸(オプションボタン)を押せば印刷帳票の選択ができます。

**履歴タイプバーコード印刷** バーコードで入力するための履歴タイプのバーコード付き印刷機能です。

## 4.3 計器検索印刷

メインメニューの「帳票管理」「計器検索印刷」を選択すると下図を表示します。

計器検索条件

上記、条件項目の論理積(AND条件)で検索します。条件を指定せず実行ボタンを押すとすべての結果として表示します。

計器コード	登録	登録日	貸出し禁止	特記事項
管理番号	購入日	購入日	他部門貸出厳禁	注意事項
資産番号	廃棄日	廃棄日	他部門有償貸出	未定義項目3
資産対象	除却日	除却日	任意チェック4	未定義項目4
計器/機種名	減価期間	減価期間	保守部品取り用	未定義項目5
型番/型式	購入価格	購入価格	任意チェック6	未定義項目6
製造番号	定価	定価	任意チェック7	未定義項目7
計器種類	単位	単位	任意チェック8	未定義項目8
計器区分	サイズ	サイズ		
メーカー	質量	質量		
管理部門	定格	定格	校正期間	
担当者	備考	備考	次回校正日	
購入先			耐用年限	

リセット 実行 閉じる

各項目にいった文字の一部(黄色のコンボボックスでは選択した名称のコード番号)を論理積(AND 条件)で検索します。なにも条件を設定せず「実行」ボタンを押すとすべての計器が検出されます。

条件設定についての注意

### 1 チェックボックス

最初に画面がでたとき空白になっています。この場合この項目はチェックの有り無し無関係に検索します。Yes にすると、Yes データのみ検索します。No にすると、チェックが No のデータのみ検索します。Delete キーで空白にできます。

### 2 黄色のコンボボックス

計器種類

単位

圧力計  
加圧器  
デジタルマルチメーター  
シンクロスコープ  
記録計  
電流電圧発生器  
温湿度計

最初に画面がでたとき黄色になっています。この場合この項目は条件が設定されていません。しかし一旦空白(空白は初期値の 000 コードを示します。)を含むどれかを選択すると無選択の状態にはもどせません。

これらの条件をもどすには画面を閉じてメニューから再度「計器検索印刷」を選択するか、画面下部の機能ボタン「リセット」を押します。



条件を設定して実行すると下図を表示します。

検索結果/出力選択										
コード	管理番号	計器名	計器種類名	計器型番	ユーザー定義チェック(変更可)					
詳細	100001	SF-9663	デジタルストレージ	デジタルスコープ	DD-125-9621	Y	N	N	N	N
詳細	100002	93-4512	90cm円形	デジタル抵抗計	DF-8520	N	Y	N	N	N
詳細	100004	84-38		デジタルスコープ	223	N	N	N	N	N
詳細	100005	ASD-3569				N	N	N	N	N
詳細	100006	XDF-963				N	Y	N	N	N
詳細	100007	93-9666				N	Y	N	N	N
詳細	100008	yy-99-631	新型記録計	記録計	ginreco	Y	N	N	N	N
詳細	100009	ZXC-125-9654				Y	N	N	N	N

計器カード	計器リスト	画像計器カード	修理履歴リスト	貸出履歴リスト
<input type="checkbox"/> 貸し出し禁止	<input type="checkbox"/> 他部門貸出解禁	<input type="checkbox"/> 他部門有償貸出	<input type="checkbox"/> 任意チェック4	
<input type="checkbox"/> 保修部品取り用	<input type="checkbox"/> 任意チェック6	<input type="checkbox"/> 任意チェック7	<input type="checkbox"/> 任意チェック8	
編集	閉じる			

画面上部に条件に該当した計器がリストアップされます。

下部の「計器カード」「計器リスト」ボタンを押すと該当計器それぞれの帳票の印刷プレビューを表示します。

詳細ボタン その行の計器の登録画面を表示します。

チェックボックスの定義は基本情報画面のシステムタブで設定しますがその定義名称がここにも表示されます。定義名称の左にあるチェックボックスにチェックをいれるかはずしてボタンを押します。すると確認メッセージがでますが「はい」を押せば検索結果のデータに対して

チェックボタン一括変更 (検索結果データ対象)	<input type="checkbox"/>	貸し出し禁止
	<input type="checkbox"/>	保修部品取り用

変更できます。チェックボックスが灰色のままではつけるのかはずすのかわからないのでできません。さまざまな条件で検索しその度にチェックをいれてひとつのグループにしておけば後で検索するときこのチェックのみの検索条件で抽出することができます。

ユーザー定義チェック(変更可)									
Y	Y	Y	N	N	N	N	N	N	N
N	Y	N	N	N	N	N	N	N	N
Y	N	Y	N	N	N	N	N	N	N
N	N	N	N	N	N	N	N	N	N
N	Y	Y	N	N	N	N	N	N	N
N	Y	N	N	N	N	N	N	N	N
Y	N	N	N	N	N	N	N	N	N
Y	N	N	N	N	N	N	N	N	N

また左図の 8 つのチェックボックスを個別にチェックの Yes/No 変更もできます。

**重要** 検索条件にこのチェックを指定して検索しその結果に対してチェックを変更したものはその時点で検索条件に合わなくなっているため画面ではみかけ上表示していますが印刷することはできません。たとえばチェック1にチェック有りの条件で検索し、検出したデータのチェックを個別または一括ではずす指

令を出し、はずした場合は、

検索条件画面下部の機能ボタン説明。[]の中は対応するファンクションキー名です。

リセット【F4】 コンボボックスの値やチェックボタンを無選択に戻します。

実行【F4】 画面に設定した条件で検索した結果画面を表示します。

閉じる【F8】 メインメニューにもどります。

検索結果画面下部の機能ボタン説明。[]の中は対応するファンクションキー名です。

編集【F4】 カーソルのある行の計器の登録画面を表示します。

閉じる【F8】 検索条件設定画面にもどります。

#### 4.4 メインメニューカレンダー

起動したとき本日の日付を灰色で表示します。カレンダーの中の前月や翌月の日付部分をクリックすると月のページめくりができます。



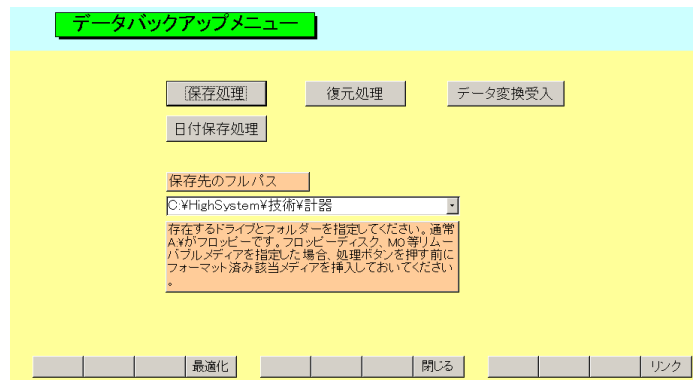
ある月の日付をダブルクリックすると「次回校正日」の日付がその月に含まれる計器を検索して検索結果画面を表示します。

## 第5部

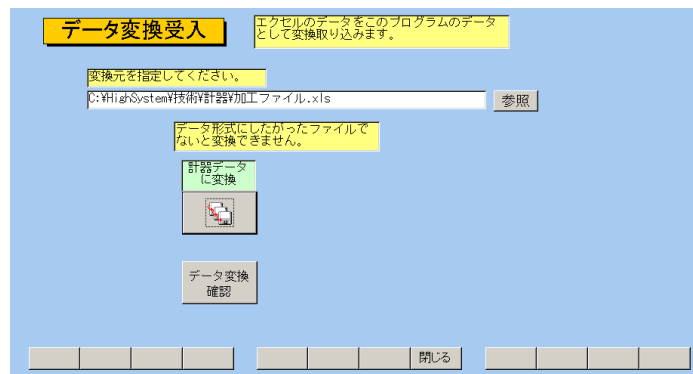
# データ変換

## 6.1 エクセルデータ変換受入

メインメニューから「マスター管理」「データバックアップ」で下図を表示します。



データ変換受入ボタンを押します。下図が表示されます。

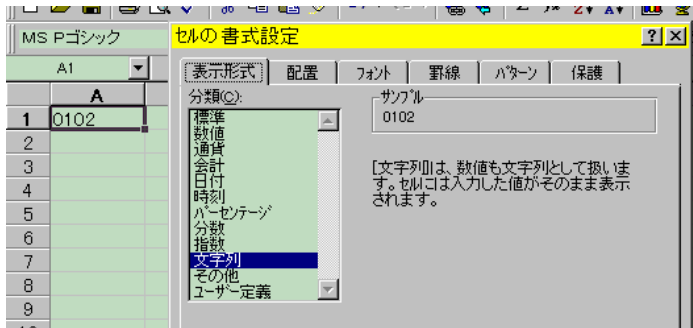


本プログラムにはサンプル用の計器 samp.xls というファイルがはいっていますが、それを参考にファイルを作成してください。ファイル作成用には加工ファイル.xlt というエクセルのテンプレートファイルも添付されています。

**重要** 既存データを本プログラムに受け入れるにはエクセルファイルへの一定の加工がいります。そのためにはエクセルの操作について一定の知識がいります。

本プログラムではメーカーコードや計器種類コード、担当者などはコードデータを格納しています。既存データを加工する場合あらかじめ本プログラムでそれらシステムファイルを作成し、印刷ボタンで印刷しておき、それをもとに計器種類コードでの圧力計は 001 番というふうにコード変換する必要があります。なおすべてのコードは先頭に 0 を含む場合もある文字列ですのでセルの表示形式を文字列にしてください。そうしない場合、先頭に 0 を含むコード番号を入力したとき先頭の 0 がなくなってしまいます。(例 コード番号 0102 を入力すると 102 となってしまいます。)(セルの表示形式を文字型にするには、エクセルのメニューバーで「書式」「セル」「表示形式」のタブで文字型を選択する。その列はすべてそうすること。)

コード変換が大変なときは本プログラムに計器名、管理番号、資産番号等基本的事項のみ受け入れてから本プログラムの計器データ登録画面でひとつひとつ設定する方法もあります。



上図セルの表示形式を文字列にしたのでコード番号 0102 をそのまま表示できる。

エクセルファイルでの計器プログラムヘデータ変換受け入れるための加工作業

1 加工ファイル.xlt というテンプレートをダブルクリックして新しいファイルをつくります。その中にあるサンプルデータをみながら既存データをエクセルに読みこみエクセルファイルの第 1 行を加工ファイル.xlt の第 1 行の名称のように変更していきます。たとえば計器の名称が書かれている列を「計器名」とする具合です。

名前ボックス



2 変換するデータエリアを選択します。たとえば A1 のセルから BA500 のセルまでなら A1 セルをマウスでクリックしてマウス左ボタンをはなし BA500 のセルまで移動してからシフトキーを押しながらまた左ボタンでクリックするとそのすべてが黒色になり選択されます。その状態で名前ボックスに変換範囲という名前をいれます。(変換するセルの範囲を「変換範囲」という名前をつけて範囲指定しないと変換できません。) こうして、できたエクセルファイルを「加工ファイル.xls」という名称で C:\HighSystem\技術\計器のフォルダーに保存します。(他の名称やフォルダーでもかまいませんが本プログラムの初期値が C:\HighSystem\技術\計器\加工ファイルとなっているので選択する手間がいりません。)

3 本プログラムで「マスター管理」「データバックアップ」「データ変換受入」と選択します。「計器データに変換」のアイコンボタンを押します。

確認メッセージがでますので「はい」を押します。変換が終わると「終了しました。」というメッセージがでます。ファイル名が違ったり存在しない場合には「この変換元ファイルは存在しません。」というメッセージがでます。

データ変換元エクセルファイルについての注意事項

1 エクセルファイルの中で変換するエリアには必ず「変換範囲」という名称をつけます。これはその名のとおり変換する範囲を明確化するためです。

2 エクセルファイルの第 1 行目が本プログラムでの計器マスターのフィールド名になります。必ずテンプレートやサンプルで示されている名称にしてください。

## 計器データに変換した際の空白項目の処置

データ変換で本プログラムが管理するすべての項目が加工以前のデータに存在しない場合、以下の項目については空白の場合、初期値を自動設定します。また計器コードは自動生成します。

- 1 登録 登録にチェックがはいる
- 2 メーカーコード 000 と登録
- 3 管理部門コード 000 と登録
- 4 計器区分 000 と登録
- 5 計器種類コード 000 と登録
- 6 購入価格 0円と登録
- 7 購入先コード 000 と登録
- 8 登録年月日 変換当日
- 9 担当者コード 100 と登録
- 10 定価 0円と登録
- 11 計器コード 自動生成

変換したデータは計器登録画面で全数をチェックして不足する項目の設定をする必要があります。

注意 「計器データに変換」の動作は Access2000/2002 の「ファイル」「外部データの取り込み」「インポート」の作業を自動で行なうだけで変換作業そのものは Access2000/2002 の機能に依存しています。